



きらめく まちビト

×
富田耕一郎

SWANK企画の代表を務める富田耕一郎さん。
その活動内容や演劇の魅力などについてインタビューしました。

芝居を通じて、さまざまな人とつながりを持てるのが楽しいです。

SWANK企画はどのような団体ですか

前職の舞台照明の会社を辞めて名寄に戻ってきたときに、友達作りの意味も込めて、あさひサンライズホールで行っている「芝居で遊びましょ」という、名寄の市民劇のようなものに参加しました。そこで出会った方とのつながりでいろいろなることを手伝うようになり、舞台の裏方(照明、音響)でイベントの手伝いをする受け皿として、平成26年にSWANK企画を立ち上げました。

自分たちが芝居が好きなので芝居もしていますが、第一の目的は舞台の技術提供で、そこに理解があり、名寄に根付いて一緒に活動出来る方をお願いして、約10人で活動しています。

演劇の魅力は何ですか

どんな舞台芸術でもそうかもしれませんが、演劇はコミュニケーションの場だと思えます。音楽ならもっと短時間で合わせて、公演できる人が多くいる中で、芝居は1カ月半稽古をしないとちゃんとお見せすることができません。非効率的なのですが、時間をかけて人と人とのつながりを強く、広くしていくという

のが面白いなと思います。SWANK企画で主催する芝居に、初対面の人に参加する回が7回ほど続きましたが、仲間として受け入れて、名寄を離れてしまっても変わらず仲間としてつながっていられる関係がいいなと思います。

EN-RAYホールが出来て5年経ちます

5年経って感じるのは、まだ一度もホールに来たことがない人がいるのだろうなということですね。EN-RAYホールは何かの特化したホールではなく、いろいろな公演をしているホールなので、一度も来たことのない人たちにも届くようなことをやれたらいいなと思います。私たちは演劇でお手伝いはできませんが、もっと振り幅のある公演をしたいと思っています。文化、特に舞台芸術は無駄なものだと捉えられるかもしれませんが、生活を豊かにするために必要なもので、その手段がいろいろあった方が名寄には合っていると思います。名寄はウインタースポーツひとつとっても、スキー、ジャンプ、カーリング、クロスカントリ―とさまざまな競技ができませんが、こういうまちは貴重で、ひとつの魅力だと思っています。

Profile

富田 耕一郎 (とみた こういちろう)

昭和58年3月生まれ。名寄市出身。妻と子ども2人と4人暮らし。舞台照明、演劇に興味がある方は気軽にお声がけを。

舞台芸術もそのようになればいいなと思います。
また、小学生の娘がいます。が、学芸会をEN-RAYホールで開催して、もっと見えるものにしたらいいのではないかと感じます。大変かもしれませんが、照明なども外部にお願いして、教師と違う大人と接すること、そして舞台に立つということが、子どもたちにとっていい経験になるのではないかと思います。
今後の目標は
2月9日(日)に行う名寄歴史市民劇「スターゲイザー」の札幌公演(詳しくは本紙21ページ)をけがなく無事に成功させたいです。12月の名寄公演では好評をいただいたので、札幌の皆さんにもお届けしたいです。

きらめくまちビト…名寄市内で活躍する市民などの紹介を通して、地域の魅力を発信します。